

2018. 11. 20

NPOフォーラム・だより No.86



NPO法人安房文化遺産フォーラム

代表 愛沢伸雄

〒294-0036 千葉県館山市館山 1016 さらしな館 TEL&FAX:0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト http://bunka-isan.awa.jp

会員・寄付募集中！ ⇒ 郵便口座 00260-1-97307 名義:NPO法人安房文化遺産フォーラム

年会費=A会員 2,000 円(総会議決権あり) / B会員:個人 1,000 円(ニュースのみ送付)・法人 10,000 円

◎ 青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅 が県民投票で「ちば文化資産」に選定されました。

◎ 江戸人形浄瑠璃を楽しむ会

11月23日(祝)第一部 10:00/第二部 13:30 各回 40名

鑑賞料:1,000 円 【要予約】 090-9342-3638(関)

演目: 寿式三番叟/奥州安達ヶ原 袖萩祭文の段

築 130 年の小谷家住宅・青木繁「海の幸」記念館が、趣深い芝居小屋に早変わり。江戸人形浄瑠璃保存会(中込功代表)による3回目。しなやかな人形の演技は涙を誘います。

主催:青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会(事務局:NPOフォーラム) 【友の会:年会費 2,000 円】



◎ BS テレビ東京「ミステリアスジャパン」で赤山地下壕を紹介!

12月1日(土)7:30~8:30 『巨大地下要塞と謎の直接軍政 4 日間』

協力:NPO法人安房文化遺産フォーラム

数多く戦争遺跡が残る千葉県館山市にある巨大地下要塞・赤山地下壕は、いつ、何のために造られたのか。定説では昭和 19 年以降とされているが、昭和 10 年代のはじめにひそかに建設が始まったという証言もあるという。また、終戦直後には、本土唯一、米占領軍による4日間の直接軍政が敷かれている。その目的は?なぜ4日で解除になったのか、その謎に迫る。…解説は、NPOフォーラムの池田恵美子事務局長が登場します。



30万人目となったツアー客ら=館山の赤山地下壕跡で

30万人目となったのは「コープみらい地域クラブ平和を伝える会」のツアー客ら。ガイドの案内で壕内を歩いた後、記念セレモニーが開かれた。

30万人目と新たな記録し、過去最多を更新した。壕者が大幅に増加。新聞やテレビで数多く紹介されたことで知名度アップにつながり、29年度には入壕者数3万8248人を記録し、

館山市の戦争遺跡「館山海軍航空隊赤山地下壕(こう)跡」の入壕者数が30万人を達成した。30万人目はツアー客17人。約1・6キロの大規模な防

戦争遺跡の赤山地下壕 17人のツアー客代表に記念品

館山 平和学ぶ拠点 30万人に

セルモニーでは同市の出山裕之教育長やNPO法人安房文化遺産フォーラムの愛沢伸雄代表らが祝福し、記念品としてクリアファイルを手渡した。愛沢代表は「30万人は通過点だが、地道な活動が少しずつ実ってきた成果。次の世代に文化財の魅力伝えることで市の活性化につなげていきたい」と話した。

房日新聞 2018.10.18付

★かきたエマオバザー ボランティア募集

11月30日・12月1日(金土)

8:30~14:00 お買い物もぜひ!



Report ウガンダコーヒー月間キャンペーンの報告 ～1杯のコーヒーで社会貢献～



安房の高校生を中心に24年続くウガンダ支援・交流活動。10月に「をウガンダコーヒー月間」とし、支援キャンペーンを展開しました。安房地域の22の協賛店舗を通じて約180kgのウガンダコーヒーが流通し、**79,400 円の支援金**と**46,136 円の寄付**が寄せられました。これは、安房・平和のための美術展のチャリティ売上、安房西高校 JRC 部や館山病院感謝祭におけるバザーや募金と合わせ、今年度の通常支援と夏のウガンダ訪問視察経費の一部に充てさせていただきました。協賛店舗およびコーヒーを飲まれたお客様に厚く御礼申し上げます。

また先般、在日ウガンダ大使館の政務次官の方と面談し、私たちの活動を知らせる機会がありました。その後、「ぜひ館山を訪問し感謝を伝えたい」と、お礼のメッセージが届きました。日程を調整し、報告歓迎会を計画したいと思います。

NPOフォーラムでは引き続き希望者に予約販売します。

- 100g= 550 円
- 200g=1,000 円
- 500g=2,100 円

Report 旧安房南高校 木造校舎見学会

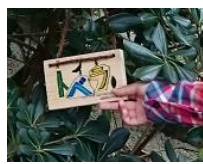
千葉県の委託を受け、10月27日に県指定文化財の木造校舎見学会を当NPOが企画運営しました。1,000人が来訪、大盛況でした。



安房高等女学校木造校舎を愛する会
【年会費 2,000 円】

Report 房南小学校 5年 樹木名プレート設置

ニッセイ緑の財団の助成を得て10月10日館山市立房南小学校5年生とともに、樹木名プレートを制作し、安房自然村・青木繁「海の幸」記念館(小谷家住宅)・布良崎神社に設置しました。



◆ **NPOツアーガイド&講演のスケジュール** ◆

- * 10名以上の団体のスタディツアーガイド(有料)を承っています。…座学・テキスト付=@1,500円/赤山のみ=@500円×人数…
- * 毎月第一日曜の午前は、個人や小グループを対象に、赤山地下壕ガイドサービス(無料)を実施しています。

- 11月26日(月)10:20~11:40 コープみらい・ブルマンアート 20名=青木繁「海の幸」ウォーキング
- 11月30日(金) 9:20~11:40 千葉自然学校シニア大学 15名=青木繁「海の幸」ウォーキング
- 12月 2日(日) 9:30~12:00 赤山地下壕ガイドサービス
- 12月10日(月)10:00~12:00 退職女性教職員・花大根の会 15名=かにた婦人の村
- 1月 6日(日) 9:30~12:00 赤山地下壕ガイドサービス

保存活動の旗振り役

館山の愛沢伸雄さん(66)

本1冊分ぐらいの寄稿

地域の文化財を守る、活用する取り組みに30年以上情熱を傾ける。赤山地下壕(こう)をはじめとした戦跡、国史跡にもなった稲村城跡、最近では青木繁が「海の幸」を描いた小谷家住宅など幾多の文化財の保存活動の旗振り役を務め、本紙への登場回数も数え切れない。

「房日新聞は、文化財をまちづくりに生かしたいという私たちの思いをきっちり記事で伝えてくれた。いつも活動を支えてくれ、感謝しています」と笑顔を見せる。

かつては「戦後50年」で、地域の関係者とともにロングランの連載

「本1冊分ぐらいは書かせていただいたでしょうか。活動を知ってもらうには新聞の存在は大きかったです。掲載によって、人がつながり、活動の輪も広がった。言葉では言い表せないくらいお世話になりましたよ」

保存活動の紙面掲載を振り返り、「全国紙ではあまりないでしょうが、房日さんはよく集合写真を掲載

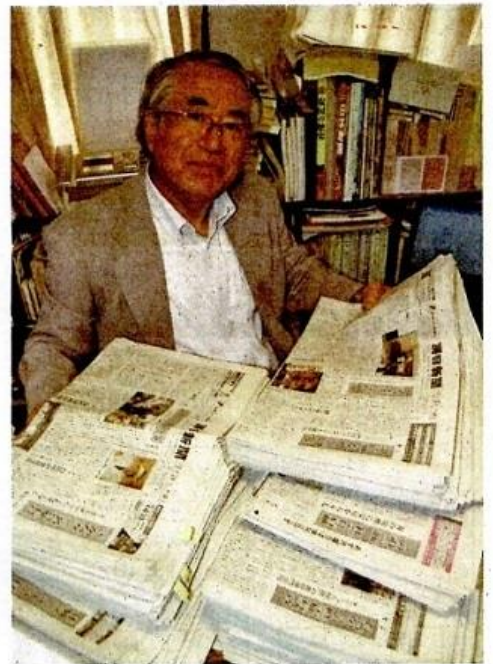
してくれませんか。地域紙ならではのいいところ。自分の顔が出るということは関係者にとってはうれしいことなんです。活動するうえでみんなの励みになる」と語る。

日々の紙面では「毎日のまちの動きを見ることが出来る。中でも同じように環境保全など市民運動、地域活動をやっている

房日新聞 2018.10.15付



方の記事は気になりますね。房日新聞は過去10年分ぐらいそのまま。自宅に保管。自身の活動だけでなく、さまざまな取り組み、出来事の経過の振り返り、検証



自宅で房日に目を通す愛沢伸雄さん=館山

に活用している。「私にとっては古新聞でなく資料。ただ家の中は新聞でいっぱいです」と苦笑い。

「今後の房日新聞について「時代、地域の流れが大きく変わっていく中で、将来を見据えたまちづくりの方向性をどう見えていくか。70年の歴史の厚みがある中で、地域新聞の役割が問われているのでは。今後市民目線での市民のコミュニケーションづくり、まちづくりにつながる紙面展開を願う」と求めた。

